

共同助成（山形県遊技業協同組合）

「子どもが主役農都交流プロジェクト～異世代と地域間交流で伝統と文化をたくましくつなぐ子ども育成事業～」事業

地域文化の継承と首都圏との交流・発信活動を通して地域創生の主役となる次世代の人材育成

山形県の羽前小松駅は全国初の町民駅。シャッターが目立つ駅前通りに人を呼び町を盛り上げようと、地元の川西町住民によるまちづくりがスタート。次世代の育成や首都圏との交流に積極的に取り組み、高校生や小学生が観光大使として活躍する。多世代が連携するまちおこし活動は地域活性化の好例として注目されている。



置賜農業高校演劇部の食育ミュージカル東京公演を告知するチラシ



毎年恒例の農都交流で首都圏から参加した家族が稲刈りを体験

高齢者や団塊の世代から子どもたちへ地域の文化を伝承する講座を開催

NPO法人えき・まちネットこまつは、「ストップ無人駅」の住民運動が地元の高校生と住民のまちおこし活動に発展してできた団体だ。次代を担う小学生から高校生の地域活動への参加と、これを育みサポートする住民の連携により、地域の活性化に取り組んできた。

「まちづくりは人づくり。地域の未来を担う子どもたちが、さまざまな交流を通して地域のよさを知り、誇りや自信を持つことが地域再生につながると思っています」と話すのは、同法人理事長の江本一男さん。これまで力を入れて取り組み成果を上げてきた次世代育成事業を継続し、さらに

発展させるために、AJOSCの助成が役立てられた。

1つは、次世代への「文化伝承」事業だ。駅のある川西町は山形県南部の置賜地域の中央に位置する。少子高齢化の進行で廃れゆく「地域の宝」を伝え残そうと、つる・わら細工、昔語り、絵手紙、ペーパーダリヤ、花笠踊り、郷土料理などの講座を開催し、3年間で延べ500人以上の小中学生が受講している。昨年度は24講座を開催した。「この取り組みは県や他の市町にも波及しています。高齢者や団塊の世代が講師となり、さらに、高校生や大学生がジュニアリーダーとして指導的な役割を担うことで、多世代が交流する地域活性化のモデルになりつつあります」と成果を語る。

地元の農業高校生が農都交流の主役 地域の食や文化を首都圏に発信

もう一つは「農村と都会の交流の促進」である。川西町では毎年首都圏から参加者を募りさまざまな地域体験をってもらう農都交流を行っている。昨年度は9月に1泊2日で開催し、参加者5人が芋煮、人力車でのまちなか巡り、野菜の収穫、稲刈り体験などの体験を通して交流した。

一方、首都圏における交流活動の主役の役割を果たしたのは地元の置賜農業高校の生徒たちだ。同校教諭でもある江本さんのもと、食料環境科の生徒たちのグループ「チームアグリクシオン」や、豆のPRグループ「豆ガールズ」が大活躍。特産の紅大豆など町内産の豆を直売する「豆の駅」を東京の高円寺や北千住に出店したほか、豆料理教室を開催するなど、郷土の食文化を発信した。また、同校の演劇部が10年来行っている食育をテーマにした「食育ミュージカル」公演活動は認知も広がり、地元の小学校や児童館などで20回近くの公演を行ったほか、集大成として12月に東京公演を実施した。2日間で1,000人近くの

観客を動員する盛況ぶりだったという。

さらに、昨年度は子ども観光大使の活動も本格的に始動した。町の花ダリヤを冠した「ラダリア」という小学生14名のダンスグループだ。テーマソングも完成し、東京でのお披露目も果たし、さまざまな観光イベントで川西町の元気をアピールした。

「若者たちの頑張りや、首都圏との交流が拡大し、アンテナショップの開設などに広がりを見せています。川西町や山形県のファンがもっと増えて、人や物が相互に動いて大きくなると期待しています」と江本さん。

地域を愛し、地域に誇りを持つ若い世代の活力が、ここ川西町に再生の息吹を吹き込んでいるのは確かだ。

山形県遊技業協同組合から

地元の高校生や小学生が観光大使となり町をPRする活動は、地域活性化の好例になると思い助成させていただきました。今後も子どもたちの成長や事業の拡大に期待しています。

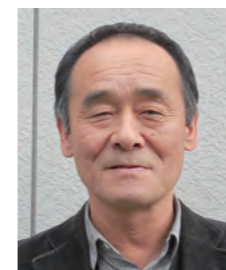


元気いっぱいのダンスで川西町をPRする子ども観光大使ラダリア



地域のお母さん方から学んだ郷土料理を東京で披露する高校生

助成団体: 特定非営利活動法人 えき・まちネットこまつ <http://www5.omn.ne.jp/~eki-mn-7>



地方創生のための助成をこれからも継続してほしい

AJOSCの助成主旨である「子どもの健やかな成長を願う」事業として、地域を愛し、地域に誇りを持ち、地域の未来を担う子どもたちの成長を手助けすることができました。心より感謝いたします。次世代の健全育成が持続可能な社会を築くという意味では、地方は待たなしの状態にあります。今回のような助成をぜひ続けていただきたいと思っています。

NPO法人 えき・まちネットこまつ
理事長 江本一男さん